

| | |
|-------------------------------|---|
| <p>① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化</p> | <p>事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、費用便益分析で使用する単価の変化や労務・資材単価の上昇、優先度の高い箇所から実行するよう計画を見直したことに伴う路網整備の追加等の事業量の変化等によるものである。</p> <p>総便益（B） 43,840,540 千円（平成 22 年度の評価時点 8,408,399 千円※） 総費用（C） 8,744,113 千円（平成 22 年度の評価時点 2,623,650 千円※） 分析結果（B/C） 5.01（平成 22 年度の評価時点 3.20※）</p> |
| <p>② 事業効果の発現状況</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 造林及び保育等によって、8,326 ha の森林を整備し、水源涵養^{かん}や山地保全、地球温暖化防止等森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。 ・ 林道（延長 3,116m）の開設により、施業地までのアクセス時間が短縮され、森林施業の効率化が図られるとともに、大型トラック等の車両が通行可能となったことにより、木材生産・運搬の効率化が図られた。 ・ 森林整備、路網整備事業の実施により、雇用が創出され地域経済の振興に貢献した。 |
| <p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 整備した森林は、継続して適切に管理され、良好な管理状況にある。 ・ 整備した路網は、適切に維持・管理されている。間伐等の事業を実施する際は、草刈りによる視距の確保、排水路内の土砂の撤去や路面の補修等がなされており、維持管理状況は良好である。 |
| <p>④ 事業実施による環境の変化</p> | <p>適切な森林整備により健全な森林が形成され、水源涵養機能^{かん}や山地保全機能等といった公益的機能及び林産物の安定供給等といった木材等生産機能が高度に発揮されている。</p> |
| <p>⑤ 社会経済情勢の変化</p> | <p>林業の現場では、高性能林業機械を含む機械作業システムの導入が進み、路網との組み合わせにより効率的な森林施業が可能となっている。戦後造成された人工林の多くが本格的な利用期を迎えている中、林業の成長産業化を実現するためには、豊富な森林資源を利用しながら、地域材の需要創出や安定供給体制を構築することが急務となっている。</p> |
| <p>⑥ 今後の課題等</p> | <p>森林の有する多面的機能の維持増進を図るとともに、主要樹種であるスギ、カラマツといった人工林を中心とした木材を安定的に供給するため、効率的かつ効果的な森林整備及びその実施に必要な路網を着実に整備する必要がある。</p> <p>主伐箇所は、伐採と造林を一体的に行う一貫作業システムを積極的に導入するとともに、コンテナ苗植栽や下刈等の保育作業を省力化するなど、低コスト化を一層推進する必要がある。また、ニホンジカによる造林地の食害や松くい虫被害・ナラ枯れ被害等が発生しているため、森林被害の防止対策に取り組む必要がある。</p> <p>このため、民国連携を図りながら、実証された低コスト技術の共有や、低コスト化に資する技術の開発・確立に取り組み、併せて試験研究機関等の関係機関と連携してニホンジカや松くい虫等による森林被害の防止対策に取り組む必要がある。</p> |

| | |
|-------------|---|
| | <p>地元の意見：</p> <p>(岩手県)</p> <p>水源涵養^{かん}や国土保全、地球温暖化防止等の公益的機能が発揮できる健全な森林の育成と、森林資源の充実を図るため、伐採跡地に適時かつ着実に再造林を進め、必要な下刈りや間伐等及び路網整備を実施するとともに、病虫害や気象害による被害を受けた森林については、早急に復旧するよう努めていく。</p> |
| <p>評価結果</p> | <p>必要性：</p> <p>本事業は、森林の有する多面的機能の持続的な発揮に資する事業であり、間伐等の森林整備を通じて森林の有する公益的機能の発揮が図られるとともに、本事業実施地区から生産されるカラマツ等の木材が安定供給されることによって、地域の林業・木材産業の振興に貢献しており、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性：</p> <p>効率的な森林整備作業システムの定着や集材効率の悪い箇所への路網の開設等により、コスト縮減が図られており、費用便益分析の結果からも事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：</p> <p>森林計画に即した森林整備の実施により、森林の有する多面的機能が持続的に発揮され、また、整備した路網を活用した木材の安定供給が図られており、引き続きその効果が発現されると見込まれることから、事業の有効性が認められる。</p> |

※平成 22 年度評価時点における数値について、消費税を含んだ数値である。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

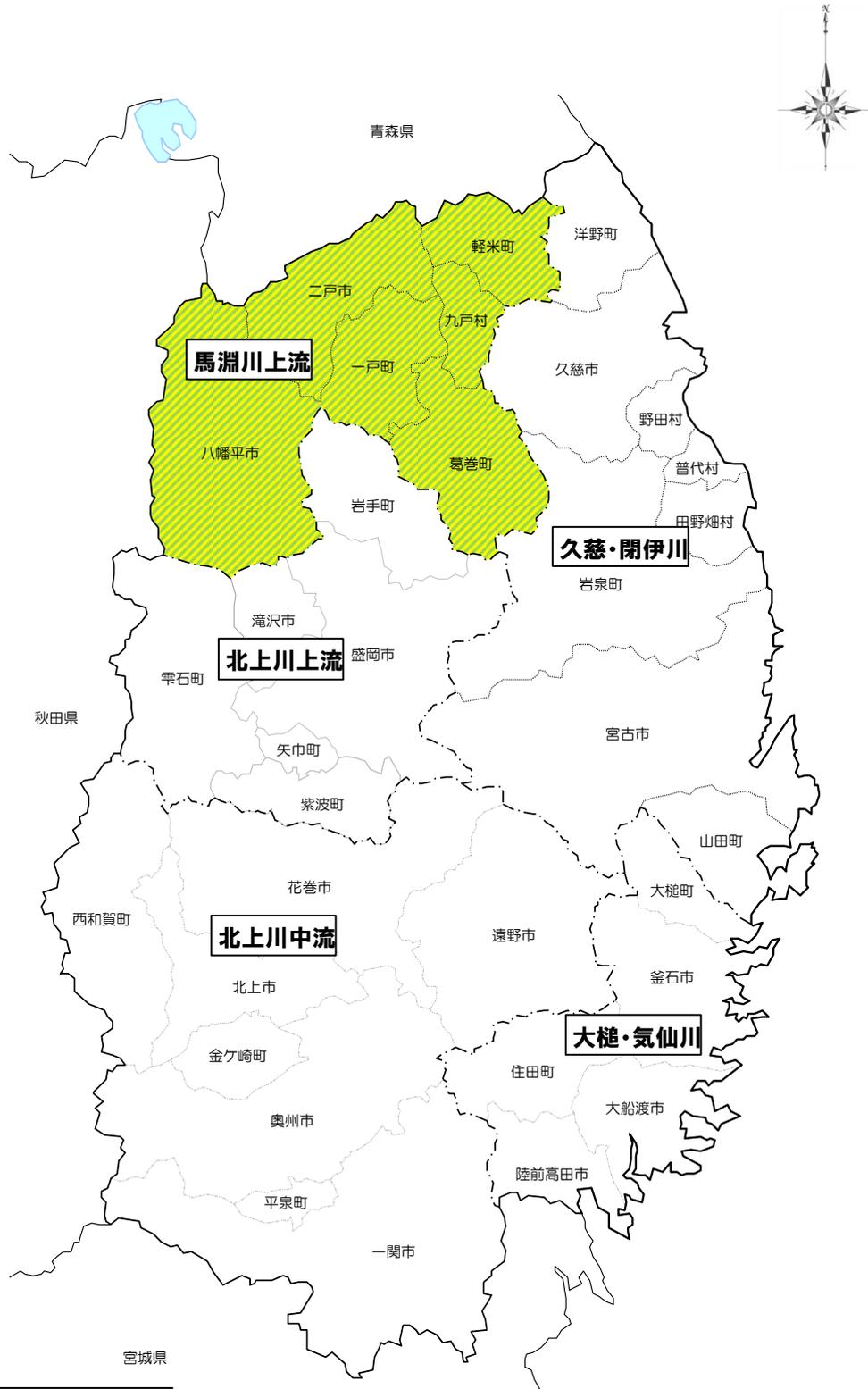
都道府県名：岩手県

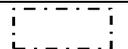
地域(地区)名：馬淵川上流

(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|------------|--------------|---------------------------------------|-----|
| 水源涵養便益 | 洪水防止便益 | 11,966,910 | |
| | 流域貯水便益 | 2,204,215 | |
| | 水質浄化便益 | 9,183,540 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 13,459,780 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 853,848 | |
| 木材生産等便益 | 木材生産確保・増進便益 | 5,785,313 | |
| 森林整備経費縮減便益 | 森林整備促進便益 | 386,934 | |
| 総 便 益 (B) | | 43,840,540 | |
| 総 費 用 (C) | | 8,744,113 | |
| 費用便益比 | $B \div C =$ | $\frac{43,840,540}{8,744,113} = 5.01$ | |

森林環境保全整備事業 馬淵川上流地域(岩手県)概要図



| 凡例 | |
|---|--------|
|  | 森林計画区界 |
|  | 事業区域 |
|  | 森林整備 |

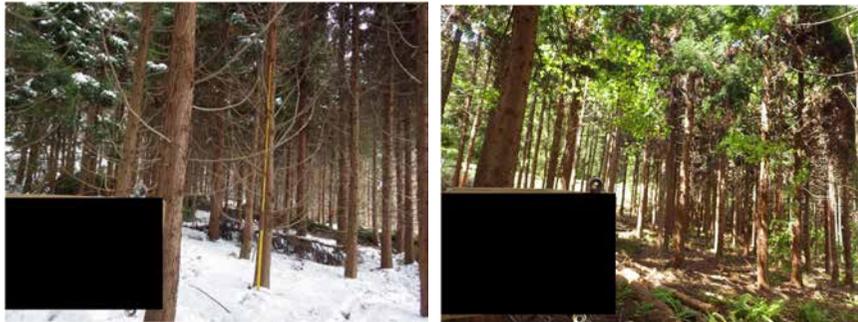
令和6年度完了評価 馬淵川上流地域 施業前後の写真



人工造林（左：施業前 右：施業後）



下刈り（左：施業前 右：施業後）



枝打ち（左：施業前 右：施業後）



除伐（左：施業前 右：施業後）



保育間伐（左：施業前 右：施業後）



更新伐（左：施業前 右：施業後）

令和6年度完了評価 馬淵川上流地域 路網整備前後の写真



林道開設 鈴峠1号線
(左：着工前 右：完成)